

浦増水防波堤として現在の位置に設定した色川三郎兵衛先生の卓見も土浦の洪水予防の見地からであった。その後堤防も高くなり、川底も浚渫されて今はもう、洪水の心配はどうやら消えて昔語りとなったようだ。

「ともあれ、桜川あつての土浦。「梅」が水戸を示すとしたら「桜」こそは土浦のシンボル。謡曲「桜川」をもち出すことの是非はともかく、私達は桜川をいよいよだいにしにしてゆきたい。洪水のない土浦にしたからには、人の力で桜川を、そして霞ヶ浦をより美しいものに守り育てられぬ筈はない。

「逝く者は、かくの如きか」と嘆じた孔子の哲理もさることながら、「流れ」こそは人の心を洗う。つはめや「こもり」のスイスイと飛び交う空の下に、桜川を再び緩々と流れしめたい。登よ、水すましょ、魚族全てよ安心して寄って来い!! 声を大にして叫べる桜川に、これからのみんなのあらゆる努力で美しい大自然の復活が望まれる。

幸い、現市長がこの点に意を用いて居られることは、しあわせの至り。今後は私たち市民の留意、船着各町村

民の理解と協力とで、生きていくわが「桜川」に一段と力強い息吹きをふきこんでゆこうではないか。

## 鳥との出会い

栗原竜男

人は誰でも美しいものには楽しい満足感を得ることができる。色彩や形態において、整った色相・彩度と落ちついた調和は、心の中に喜びを与え、また、楽器編成による音色に溢れた音楽は、そのリズム・メロディー・ハーモニーによって豊かな情操の世界へと導いてくれるが所詮、人工の音楽は演奏が尽きてしまし、また長時間の聴取では疲労を誘ったりする。

私は、山の一人旅が好きで、風景のよい場所を探すことを楽しみにしているが、とりわけ、山中野営（キャンプ）中での、また、登山中のバックミュージック的な自然の調べが好きである。